

# 韓国アチム運動史

前編 民族解放斗争

日本語訳 VOL 1

目次

はじめに

第1章 胎動期

第1節 在中国アチム元老 李会榮

第2節 申采浩と朝鮮革命宣言

第3節 朴烈と金子文子

発行 黒色救援会

300円

はじめに

我が国のアナキズム運動は1920年頃から北京の七命者達と東京の留学生達の中で芽生え始め、次第●に国内に広がってきた。

中国では丹斎申采浩の朝鮮革命宣言で、日本では朴烈等のいわゆる大逆事件で、韓国アナキズム運動の幕が開かれた。この二つは、同以1923年の出来事であった。

庚戌国恥(1910)後中国に七命した友堂李会榮は、3・1蜂起直前の1918年北京で丹斎に会った。朝に夕に会い、彼らは真に国を取り戻すことが出来る道は何であるか共に摸索した。民族独立のために彼らが歩んで来た道は、次第にアナキズムに向かっていた。

その頃、日本では朴烈を中心に留学生同僚達が日本のアナキスト達と交際しながら、次第にその思想に共鳴していった。

1910年代中国は、龍頭蛇尾に終わった辛亥革命(1911)後、群雄割拠の混乱の中で資本主義列強の沿岸浸蝕が継続されていた。

この乱局は、民族の団結・政治の民主化・経済の近代化を切実に要求していた。それはまさに清朝を打倒して西勢東漸を止め、漢族の民族国家を打ち立てようという願望であった。

中国のアナキスト達も、このような民族主義的課題にもほむを向くことは出来なかった。問題はただこの課題の遂行にアナキズムをどのように適用すべきかということだけである。

1919年に起った韓国の3・1運動と中国の5・4運動は共通した問題の質を持っていた。丹斎の朝鮮革命宣言は、この共通した問題状況に対する解決方策の提示であった。

日本の事情はこれと異っていた。日本は1910年代既に、約半世紀の近代化課題を成就し、日清(1894)、日露(1905)両戦争を経て近代的民族国家から次第に帝国主義的段階に移り、資本主義列強の一員となっていた。こうして労働階級は急速に成長し、社会主義運動がより一層熾烈に展開されていた。

このような状況下で、日本での我々のアナキスト運動は自然に、民族解放闘争を階級解放闘争に依存する方式で展開されたのに、中国での我々のアナキスト運動は階級解放戦線より民族の解放と独立のための単一共同戦線の構築に一層精力を集中せざるを得なかった。後者がいつも民族主義的色彩を濃くしているのに比べ、前者は日本の労働運動と固く結び付いて顕著に左傾化していることは、前に指摘した日中両国の政治的社会的情勢の違いに因ると言える。

国内アナキスト運動の性格は海外で成長したこの両潮流が入り込み合流するところで規定されるようになった。そしてそれは民族解放戦線と階級解放戦線の相乗関係において展開された。

概ね1920年代から1970年代までの約半世紀の我が国アナキスト運動は、1945年8・15を分水嶺として、それ以前と以後に顕著に異なる様相を取っている。即ち、植

内地統治下の我が国アナキズム運動は、終始一貫 反帝・反軍国・反強権・反政府・反国家的な全面的抵抗と破壊を敢行した運動であった。しかし、抵抗の対象であり、破壊の目標であった日帝が敗退した1945年8月以降の我が国アナキズムの課題は新しい国の建設にアナキズムをどのように適用すべきであるかということであった。更に言えば「破壊に注いだ彼らの精力を今は、建設の為に動員しなければならなかった。」

以上のような見地から韓国アナキズム運動の歴史には次のような段階区分が妥当な区切りである。

### 前編 8.15以前 (民族解放闘争)

1. 胎動期 1920~24      3.1 運動後から朝鮮革命宣言と大逆事件が起こるまで
2. 組織期 1925~30      散発的組織から連盟体の結成に至る時期
3. 戦闘期 1931~45      満州事変、日中戦争、太平洋戦争連結する時期

### 後編 8.15以後 (新しい国の建設)

1. 自由社会建設者連盟、韓国無政府主義者総連盟の結成
2. 独立労農党
3. 在野民主勢力連合体の模索

## 第1章 胎動期 第1節 在中国朝鮮ヲキス元老 李会栄

### 1. その生涯

友堂 李会栄(1867~1932)は、ソウル葎洞で判書(李朝の正二品の六曹の首席)李祐承の四男として生まれた。名門の子弟らしく怒悲深く、情深い心に固い気骨と強い義侠心を持ち合わせていた。

天性が自由と平等を尊重し、若冠ながらも封建的因習と身分の差別を打破することに率先垂範した。壮年期に至って彼の愛国表情は親族李相高及び知己金鎮浩、羅寅永らと意気投合した。

1905年 乙巳保護条約(韓国と日本の外交権に関する条約)の機微が見え、必死で阻止しようと同志達と努力したが、李兇用ら五賊が敵と結託して、重大な事をだいたしにしてしまった。

友堂は1906年同志達と将来の運動方針を熟議した結果、北間島に根拠地を置き独立運動の闘士を養成することを決定した。李相高がこの重任を引き受け、まず満州に行き、友堂は国内に残り、これを後援することを決定した。

1907年夏、オランダの首都ハーグで万国平和会議が開かれるというのを聞いて、友堂は密使派遣に着眼し、高宗の許可と信任状を得て副使李僑を遅滞なく正使李相高と会わせて一緒にヨーロッパに向かわせた。東洋の火薬庫 韓国を完全な独立なくして世界平和の保障はないということを強調して、いわゆる保護条約は日本の脅迫、恐喝で造作された詐欺文書だということを天下に暴露することが国権の回復をとり戻そうというのである。

1908年にはウラジオストクに李相高を訪ね、国際情勢を検討して、帰国後各地方の志士達と連絡をとりながら国権守護に全力を傾け、人事を尽くし天命を待つも、遂に1910年国運最後の日は来てしまった。

この時友堂は満州に行く意志を固めた。一日も早く光復運動の根拠地をうち立てようとしたのである。李東寧、張裕淳、李觀植らの同志達と共に満州を踏査して帰った後、六兄弟 健栄、石栄、哲栄、会栄、始栄、護栄が一家の家産を処分して一族40余名の家族が満州に移ることを決め、同年暮れ厳冬雪寒に胡地行旅を断行した。

七国の大夫(土の上で御の下にある職)として一族が同心一体独立運動のために外国に苦勞の値を選んだ例は古今にまれなことと国民の讃揚を受けた。1911年春 鄒家荘に定着してから、多数の同胞が集って来て韓人部落が実現した。しかし韓・満人間が円満でないうちから地方官庁の干渉が厳しく、家屋買入、土地購入、貸借借等諸般にうまくいかなかった。友堂は北京に袁世凱を訪ね、協調を求めた。総理は快諾して親書を東三省総督 趙爾豊に送り、韓人移住民を積極的に後援するように指示した。こうして韓僑の満州開拓の道が開かれた。

1912年春には 隣近の僑胞達を集めて「耕学社」を組織し、独立運動家養成

機関として新學學校を設立した。現在の慶熙大の前身である。こうして僑胞の生活安定と教育普及で祖国光復の物質的・精神的土台を築いた。屯田養兵を實踐したのである。

こうしたなかで、1913年春、同志達を逮捕又は殺害するために倭敵が刑事隊を密派したという情報が入って来た。李東寧、李始榮、張裕淳、金滄璇らは李相高に頼んでラジオストックに身を隠し、友堂は単身国内に潜入した。どっちみち危険なら、むしろ国内に入り募金運動でもしようというのであった。相当額の資金が集まった。

第一次大戦が終る頃であった。休戦説が流し、1918年米大統領の年頭教書が出た。友堂は吳世昌、李昇薰、韓龍雲、金鎮浩、姜邁、李商在、俞昌煥、安廓、李得年らと国際情勢の変動に対処する方策を密議する一方、宮中に連絡して高宗の七命を勧めた。海外に行き、高宗自身が日本の強盗的暴力の所産である。いわゆる韓日合併の不法性を全世界に暴露して、その無効を宣布しようというのである。高宗も快諾した。上海に脱出する計画を立て、高宗の北京滞留費用もあらかじめ李氏、李始榮に届けておいた。ところが高宗本人が急崩し、計画は水泡に帰した。

友堂は己未独立宣言直前の1919年2月北京に発った。海外での連絡と対策のためであった。この時から友堂の運動路線は民族主義から次第に無政府主義に転回し始めた。

友堂の民族主義的独立運動を各種事件を中心にまとめて見た。この時期の同志としては次の人物が列記される。

李商在	吳世昌	俞昌煥	李相高	韓龍雲	俞鎮奎	柳瑾
沈宣性	李東寧	李甲	金九	全德基	安昌浩	李東輝
張道淳	吳祥根	柳襲男	姜邁	李郷焯	尹福榮	朴敬緒
林敬鎬	安廓	呂準	李昇薰	曹成煥	金滄璇	李光
李章寧	李康煥	李得年	鄭寅普	洪増植	金鎮浩	李觀植
下榮台						

友堂は国境を出入りして、合併後10年間の人心・世態の変化を自ら経験した。海外七命者達はこの変化を良く知らなかった。友堂はじっくり考えた。世態が変われば運動方式も異ならなければならなかった。どうしたらあの痼疾的な乖離をくい止めて、独立運動家が一致団結出来るか。

この時国内で3・1運動が起った。海外の独立運動家達は、これにどのように呼応しなければならぬだろうか。当時、海外運動の中心地は上海であった。友堂は上海に行った。

4月に入て、臨時政府を組織しようという議論が台頭した。この問題に対し、友堂は、運動の求心点は勿論なければならぬが、それを政府形態として作るということには反対した。この時に求められる組織は行政体制としての政府で



はなく、各系列、各派の協力機構としての連合体制でなければならぬと考へたためである。政府形態の組織にすれば、その上に頭目であり、領導者然とする地位争いと勢力争いで、独立運動に少なからず混乱と支障を招くことが明らかと見たのである。

しかし大勢は政府を作る方に傾いていた。独立運動が内外に活発に展開せよば政府がなければならぬというのであった。

1919年4月10日上海で大韓民国臨時政府が発表された。ところがこれより数日前の6日、既に国内でも政府を組織し、その名簿を上海に持ってきた。組織文書を持ってきた代表 韓南洙一行の上海到着は4月10日頃であった。こうして法統問題で上海、漢城両政府間に暫く言い争いが続いた。

1年を経ずして、上海側から上海政府に対する不平不満が高まっていた。それに加えて、**国** 總理 李東輝は対露借款を上海派共産党と共謀して横領し、職を恨み、合せて、吳夏黙、金河錫らイルワツク派共産党との争いの祭物に独立軍千余名を黒河自由市で犠牲にさせる事件が起った。

1920年夏 秦昂 趙鏞殷が西欧からロシアを経て北京に到着した。友堂は直ちに彼を訪ねた。パリ講和会議の様子とロシア革命の実情を知るための訪問であった。ロシアの近況と革命の得失、長短に対する評価も聞いた。この時友堂は考へた。いわゆるプロレタリア独裁で人民に平等な衣食住生活を保障してやるだけで、人間に自由がなければ、そんな人間らしい生活と言えるか。そんな平等生活は一日三食を等しく与える監獄生活と何が違ふのか。独裁権を手中に収めたボルシェビキ政権の絶対権力があるのに、どうして平等な社会と言えるのか。ボルシェビキ集団が新興貴族階級に墜落しないというのを誰が保障出来るのか。友堂はじっくり考へた人間は自由で平等に暮らしてこそ人間らしい生活と言えるのである。そんな人間生活が可能な社会はどのように組織しなければならぬだろうか。独立運動や革命運動も専らこのためだけの意味があり、価値があるのではなからうか。こうした問題を掲げて友堂と丹齋は朝夕胸襟を開いて意見を交換した。

1923年には義烈団の精神的支柱であった友權 柳興湜(子明)が上海から北京に行った。この一年間友堂は申采浩、柳子明、李乙奎、李丁奎、鄭華若等と度々会った。そして、新しい韓国の建設に対する意見を並べた。

丹齋の朝鮮革命宣言(一名義烈団宣言)はそんな雰囲気の中で執筆した文書である。この頃から友堂と丹齋は韓国の新しい国は自由連合の組織原理に従って立ち上らなければならぬという確信を持つようになった。朝鮮革命宣言にはアナキストの革命観が鮮明に現れている。

1923年3月 李乙奎、李丁奎兄弟が友堂と同居するようになり、4月には日本から島波 白貞基が北京に来て同居するようになった。

友堂・李会榮，友權・柳子明，晦觀・李乙奎，又觀・李丁奎，華岩・鄭賢燮，  
 鳴波・白貞基らは、翌年4月在中國朝鮮無政府主義者連盟を組織して機関紙  
 「正義公報」を発行した。この石版旬刊誌はアナキズムに立脚して民族主義陣営  
 内の悪い考えを批判し、独立運動を正道に導き、同時にロシア独裁を標榜す  
 るボリシェビキ革命理論を批判することで、共産主義と対決した。「正義公報」は友堂  
 が主幹したが、9号までで資金難で休刊せざるを得なかった。

1924年8月資金難と生活難が重なり、北京に集まっていた同志達が各地に散らば  
 っていた。

1925年は友堂一家に災難が極甚した年であった。

そうした1926年のある日、是也金宗鎮が友堂を訪ねてきた。是也は1920年晩秋季氏  
 李始榮と申圭植の紹介で北京に来て、数ヶ月間友堂に仕えた青年である。その是也が  
 雲南軍官学校を卒業して男らしくなっているためである。老革命家と若い独立闘士は  
 基本的理念と運動の方略に関して談論を数日続けるも疲れを知らなかった。この  
 時、友堂は円熟したアナキストとしての面影を見せてやっている。その内容は項目を分け  
 て、是也との問答形式で処理することにした。

1928年7月南京、韓・中・比・日・台湾、安南等各国アナキスト代表者が集って東方  
 無政府主義者連盟を結成した。友堂はこの大会に「韓国の独立運動と無政府主義  
 運動」と題するメッセージを送り、韓国の無政府主義運動は即ち弱小民族の真の  
 解放運動であり、韓国民族の真の解放運動は即ち無政府主義運動であるゆえん  
 を明らかにし、各国同志は韓国の独立運動に積極的に支援することを呼びかけた。  
 このメッセージは同大会の決議案として採択された。

同連盟は機関紙「東方」を発行したが友堂の墨画「黒蘭」一幅がその創刊号を飾  
 っていた。

1928年8月在中國朝鮮無政府主義者連盟は上海において「奪還」と改題した機  
 関紙を続刊した。友堂は天津からその創刊号に祝辞を送った。

1930年4月国内から申鉉商、崔錫榮、東鼓東ら若手同志が数万円の運動資  
 金を作って持ってきた。そこで、将来の運動方針を討議するため、北京で在中國朝鮮  
 無政府主義者連盟代表者会議が招集された。上海、福建、南北滿州から同志  
 達が参集した。李会榮、李乙奎、金宗鎮、鄭華岩、白貞基、金聖壽(芝江)外  
 20余名が参席した。友堂の提案で滿州に総力を集中し、上海、福建、北京に  
 連絡部を置くことを決議した。ちょうどその時、日本領事館警察が北京衛  
 隊司令部を動かし、同志達の一部宿所を急襲して10余名を検挙した。柳察(基  
 石)が救出運動に立ち上がった。申鉉商と崔錫榮は日警に引渡され、他の  
 同志達は釈放された。一時は遠大な計画で同志達の胸を高鳴らせたが、その

夢は水泡のごとく消え、冷たい現実が将来をふさいでしまった。

友堂の私財は既に独立運動に使い果たし無一文であった。同志達は各自があちこち勤がなければならなかったが、旅費さえもなかった。同志達は毎日のように友堂の寓居に集って善後策を研究してみたが妙案は出なかった。

窮余の策として天津日本居留地中心街にある中日合弁正実銀行を襲うことにした。友堂もやむを得ず衆論に従う他なかった。金芝行、楊汝舟、荊麒俊、白鷗波ら4人が実行者に選ばれ、鄭華若が後見者となった。こうして若干の金が作られた。

同志達は各自行ってしまい、友堂も今は天津に長く留まることは出来なかった。この時、華若と晦観が友堂の令嬢圭淑と荊麒俊君との縁談を提議した。同志達が集まった簡素な席で2人の若い良縁が結ばれた。友堂は三男圭虎(当時16才)と共に上海に、未婚賢淑(当時11才)は姉の圭淑夫婦に従って鷗波、華若、汝舟、芝江達と共に北満海林に向った。夫人は、これより前の1925年7月、既に生活費調達のため帰国していた。

涙を知らぬ革命家の老眼にも涙が滴った。

1930年暮れ、友堂は無事上海に到着した。そこには次男圭鶴夫婦と李氏省斎父子が暮らしていた。久しぶりの父子兄弟の出会いであった。李東寧、曹成煥、金九、趙珉九ら友人にも出会った。

1931年には前から上海に落ち着いていた鄭海里と、ソウルと東京から来た金光洲、元心昌(枚浪) 朴基成、李容俊(千里芳)、劉山芳らで組織された南華韓人青年連盟の若い同志達とも度々接触した。共産党員 洪南杓も面識があった関係でたまに訪れた。6・7月には北満で、金京鎮外2名の同志が共産分子に殺された後、華若、鷗波、芝江、汝舟らがそこで働いた李康勲、嚴亨厚、李達、金野蓬らの同志と一緒に上海に帰ってきた。限りない望みをかけて寵愛した是也を失った悲しみと、幼い娘達に対する深い情が胸にこみあげた。

同年9月 満州事変が発生した。中国の同志 王亞樵、華均実らが友堂と華若を訪ねて来て韓中共同戦線を提議した。友堂、華若、鷗波、芝江ら韓国同志7名と、王、華ら中国同志7名、そして 田華民(佐野)、吳世民(伊藤)ら日本同志達が友堂を議長として会議を開き、抗日救国連盟を結成した。

1932年2月 第1次上海事変が発生した。この時上海抗戦を担当した十九路軍と南京政府間の不和により王、華 両中国同志が香港に避難した。救国連盟の中国側支柱が抜けたようであった。友堂は国民政府要人であり、中国アキストの元老である吳稚暉と李石曾を訪ね、協力を求めた。彼らはこの要請を承諾した。彼らもまた満州問題解決に韓中共同戦線の重要性を力説した。日帝駆逐に韓国同志が一翼を担えば、100万の在満韓僑自治区設定も



中国政府として今後充分考慮出来る問題だと示唆した。張學良に連絡して武器と資金も提供されるよう斡旋しようというのであった。

同年9月友堂は満州に行く決心をした。死に場所を捜そうとしたのである。それは、白冷と是也。そして2人の若い同志が共産主義者達に殺された後、血にまみれた保壘を一旦敵の手に預けて、戦友達が皆撤収した後だった。それは満州事変に続き、上海事変を起こして、日帝の侵略が大陸の中心部にまで及んでいる渦の中であつた。老齡を心配して同志達は引き止めた。しかし友堂は聞かなかった。道のみが万里のような男の貴重な青年子弟達は何回もなく死線を越え、死地に飛び込んでいるのに、私自身は年も70を過ぎ、このまま死だけを待っても良いのだろうか。20余年前、困窮直後故国を離れて屯田養兵に意義を置き独立運動の種を蒔いたままの満州の土地、その種が育ち、まさに実を結ぼうとしているのに、そんな基地を敵達の手の中に預け、そのまま黙って目をつぶることが出来るだろうか。信頼していた若い弟子是也の屍も捜さなほまま、その孤魂をどうして眠らすことが出来るだろうか。かわいしい娘2人を敵地に残したまま、父親としてどうして安心出来るだろうか。友堂の胸中には万感が交錯した。

早く満州へ行こう、一日も早く満州に行つてまず連絡の根拠地を作ろう。そして綿密に情勢を分析し、地下組織を作り敵の首脳部を粉碎する計策を立てよう。友堂はもはやためらうことは出来なかつた。私の老いた年に見合った格好で家族を訪ねるので心配しなくていい。そして、私の体は行く道荏君に依托出来なうだろうか。私だけが満州行第一陣の適格者ではない、と、引き止める同志達を安心させた。私がまず行って準備工作をしておから続いで第2陣、第3陣が来るようにせよと頼みもした。しばらくして友堂は老骨にむち打ち、1932年11月初め大連行の汽船に乗った。あー！しかし、それが意外にも永遠の離別となるのである。圭湊が1月17日大連水上署の通知を受けて急行した時は、友堂はすでにこの世の人間ではなかつた。拷問で死んだのである。圭湊の手で屍体を火葬し、長男圭龍が故国長湍驛に遺骸をとむらつた。1932年11月28日享年66才。

北風が肌をさす駅前広場には故人を追慕する数百<sup>の</sup>人工が日警の厳しい監視のなか京郷各地から参集した。わけの判らぬ末っ子の6才の圭東が未亡人の胸に抱かひて母子で泣き叫ぶ情景は見入る人の熱い涙を止めさせることがなかつた。

友堂 李会榮の一生は実に中国での朝鮮無政府主義運動の成長過程をそのまま反映している。民族主義の中での無政府主義の成長、その思想的成熟、その闘争段階、そして戦時の戦闘体制での転換等の過程を、我々は友堂という一人の人間の生涯から読み出すことができる。

友堂の最後はこの過程の最終段階における壮烈な散華であつた。

## 2. 友堂のアナキズム

軍官学校を卒業した若い独立闘士 是也 金宗鎮との対談で、友堂の円熟したアナキズムを我々はうかがうことができる。

問. 先生が無政府主義に転向した動機を話して下さい。

答. 私が意識的に無政府主義者 ■■■ となったのか、又は転換したのか、考えることは出来ない。ただ韓国の独立を実現しようと努力する私の考えと、その方策が現代の思想的見地から見るとも無政府主義者達が主張するものと通じるが、それだけの「覺今是而昨非」式で、本来は異っていたものを私が新しくその方向を変えて無政府主義者となったのではない。また、一部の人が言うように、私が尊王派だったなら、勿論180度の思想転換と言えが、過去 韓末当時から己未直前まで私が高宗を立てようとしたことは、復辟的封建思想によるのではなく、韓国独立を促そうとするならばその問題を世界的な政治問題として提起しなければならないが、それは誰よりも対内 対外的に影響力を大きく及ぼすことができる役を立てることが上策と考えて取った一つの方策に過ぎなかったのである。大同団の全協氏が義親王 李堉を上海に奉ろうとした考えと異なるものではない。

問. 無政府主義者達の方法論で、自由連合の理論ということは余りにも気まぐしのものではないのですか。更に我々独立運動者の立場から見れば、到底そんな理論を持っては駄目なようです。

答. 独立運動の見地から私は最も適切な理論と見る。事実 全ての運動者達が自己の思想は何であり、実際に無政府主義の自由連合理論をそのまま実行しているし、己未以前はもとより 己未以後 現在までに多くの団体と組織が生まれたが、その中で団員自身の自由意志によらず強制的命令に盲従して行動した者は誰がおり、そんな団体が何処にあるか、人が鋼鉄の組織として強制と服従の規律を生命にすると評する共産党と言えども、それは赤色ロシアの如く自己の政權が確立された後のことで、やはり革命党としての運動過程においては運動者達の自由合意で行動したのである。

まして、目的が方法と手段を規定するが、方法と手段が目的を規定出来ないというこの翻然たる論理から見れば、一民族の独立運動ということはその民族の解放と自由の奪還を以て、解放運動とか革命運動という自覚と目的意識が、透徹した人々に運動自体が解放と自由を意味すると言わせるのであり、自意識が強い運動者達 ■■■ に盲目的服従や追従は出来ないし、出来てもそこにはただ運動者達の自由合意があるだけで、理論に於ても当然なことである。

それだから、強制的な権力中心の命令組織でもって、革命運動とか解放運動が起った例はないのである。多くの人間が集った集団における運動遂行の理

由として、仮に合意しない者がいるとしても、共通した同一目的を持ってはいるほど譲歩して、少数の自由意志を保留して協力することが通例である。万が一強制的に行なえば、効果がないばかりでなく、失敗に終わってしまうのである。それだから東西を通じて、いわゆる解放運動とか革命運動は自由と平等を追求する運動であり、運動者自身も自由意思と自由決意によつての組織的行動で形式上の形態はどうあれ事実上は自由合意による組織的運動である。

是世は友堂の意見に同意せざるを得なかつた。我々の運動線上にみこしい紛糾と暗闘が続いたのは、いつでも地方的派閥意識又は、個人中心の権力欲に起因したということこそ是世は常に感じていた。友堂の意見を聞いてみると、自由合意に基づく自由連合の方法によつてのみ権力争いや官職争いが根絶出来ると思はれると言つた。そして、友堂は私欲を捨てただけ仕事だけを主に考える人間は無駄な固執がなく、公正に物事を判断しようとするし、卒直に他の多くの意見に従うことが出来ると話し、君も自己の固執を捨てて他の多くの意見を受け入れらるゝ、やはり無政府主義者となるだけの気風を持った人間だと言つて、部屋に笑いの花が咲いた。

問. 将来、独立を戦い取つた我が民族はどんな社会を建設しなければならぬのですか。

答. 自由平等の社会的原理に従ひ、国家と民族の間に民族自決の原則が出来たら、その原則の下で独立した民族自体の内部にもまた自由平等の原則がそのまま実現せねばならぬが、国民相互間に一切の不平等、不自由の関係があつては駄目なのである。自由合意での運動者達の組織的な犠牲で独立が争い取られたのであるが、独立後の内部的政治構造は勿論権力の集中を避け、地方分権的自治制の確立と共に地方自治体の連合で中央政府構造が構成せねばならぬのである。経済関係にあつては財産の社会性に照らし、一切の財産の社会化を原則とすると同時に社会的計画の下に管理せねばならぬ。教育も社会的に公営せねばならぬ。

問. 先生のような構想と無政府主義理論との関係はどうですか

答. 無政府主義という社会改革の原理として、その基本となる自由合意理論と自由平等の原則を生かし、その社会の現実に合うように実現すればいいから、我々が今論議したあらゆる事は、新しい社会の基本として韓国の無政府主義者達も全て賛成するであらう。無政府主義は共産主義と異なり、画一性を強く求めることはないが、その民族の生活慣習や伝統と文化的、経済的実情に合はうその基本原理を生かすなければならぬのである。

問. 我々がそんな理念の下で独立を成就したとすれば、理念が異なる国々との国際関係はどうなるのでしょうか。

答、各民族又は自立的各社会群が究極的には一つの自由連合的世界構に連絡せねばならない。各民族単位の独立した社会、更に地域（機能的な共同生活圏で独立した主権を持って、自体の独自の問題や事件を独自の処理する一方、他の社会と関係した問題や共同の課題に対しては連合的な世界機構がこれを討議決定して、関係した各自が実行しなければならぬ。このときの社会という言葉と、国家という言葉は同一概念にすぎない。外交、国防、国際貿易、文化交流等あらゆる問題は一つの社会の中央連合機構で処理出来るのである。

友堂は最後に、人間には先史時代から続いて社会性が発達して来ていることを力説した。この社会性の発達が最高となれば人間相互間の憎悪や不信ごとくものは完全に克服出来る予知した。

友堂は将来自由な「ミューン（心の共同体）」と「ミューン」の自由連合を原理とする社会組織で民族解放の道を求めた。この原理は、一つの国に限られたものではなく、将来全世界的機構に拡大せねばならないと信じた。そして、初めて一民族の自立独立のみならず、人類の恒久的平和と繁栄が保障出来るを見たのである。

是也はこの対談を通じて得た構想を満州運動の実戦に移し、それがそのまま後日の在滿韓族総連合会運動に現れたのである。